

## くれワンダーランド構想推進会議 第3回会議 摘録

1 日 時 平成31年2月7日(木) 14時～16時30分

2 場 所 呉市役所7階 757・758 会議室

### 3 概要・骨子

#### ～ 市長挨拶・事務局説明 ～

##### 【市長挨拶】

皆さんこんにちは。呉市長の新原でございます。

今日もまた、大変、貴重なお時間を割いて、皆さん、ご出席をいただき、本当にありがとうございます。

おかげさまで、これまでここで議論されてきたことが、いくつか実現をしまっておりま

す。テレビ、新聞等で報道されておりましたけども、前回、ここで話題になりました「広島大学のサテライト」が呉市役所の中にできました。ありがとうございました。

それから、今日は、具体的なお話で、市役所の中のデータを活かして産業に使ってもらおうという「オープンデータ化」でありますとか、あるいは、市役所のいろんなホームページに出ている資料を、いろんなデータを使って、ご自由にアプリを作って、皆さんの関心があること、例えば観光、牡蠣といったようなものを、呉市役所の情報から自由に引っ張ってアプリを作って貰っていいですよというような話とか、SNSを使った観光PRであるとか、今日は、そういう具体的な話がかなり出てくると思います。

皆さんにご議論いただいたおかげです。

今日、来年度の呉の予算を発表いたしました。この中で、くれワンダーランド構想を推進していくための様々な施策、特に、子育てしやすい環境を創っていく、あるいは、いつまでも健康でいられる、あるいは、中小企業の振興基本条例も含めて、中小企業が元気になるような施策など、予算化しなければいけないものは、予算化をしております。

今日また、皆さんでご議論いただいて、それを関係機関の皆様にも聞いていただいて、できるものは、予算化しなくても、市の施策にならなくても、みんなで進めていこうという、このくれワンダーランド構想推進会議の趣旨に沿って、みんなで呉をワンダーランドにしていくことを、お願いしたいと思っております。

明るい話では、3月中には休山トンネルが4車線化いたします。

それから、今、一生懸命働きかけているのは、クレアラインが、災害対応で暫定2車線から4車線化になるように、年度内に結論が出るのですが、是非4車線化してほしいということで、国に働き掛けています。

国が決めることなので、まだ確実ではないですが、そういった働き掛けをしております。

どうぞ、今日もまた、実り多い議論をしていただきますよう、よろしく願いいたします。

○ は構成員の意見

● は事務局（市・関係協力機関）の報告等

## (1) 議題：前回会議後の状況報告について

### <前回会議の提案に関連して資料3を報告>

#### 【1 オープンデータの活用について】 森下企画部副部長

- 行政が持つデータを誰でも活用できるような形で公開する、これをオープンデータという。現状では、観光施設利用状況など、21のデータを呉市のホームページ上で公開しているが、いずれも特定の時点で集計したデータであり、これが通常のスタイルである。
- しかしながら、これらの情報は、AIの活用に向けては魅力に乏しいということで、今後、AIの研究・開発に使われることを念頭に、事業者や研究機関にとって魅力あるデータを提供しようと考えている。例えば、大和ミュージアムの1日ごとの来館者数や、蔵本駐車場の時間ごとの入出庫の状況など、人や物の流れが見える動的なデータ、生のデータがAIの開発に必要である。
- これらのデータを提供するに際しては、研究・開発を行う事業者等には、本市まで出向いてもらい、本市で取り組んでもらうことを提供条件とすることで、研究者の方々が世界中から呉に集まる、呉に人を呼び込む仕組みとしてのオープンデータの活用を目指していこうということで、郡山構成員と調整を行っている。

#### 【2 呉氏の利用について】 森下企画部副部長

- 現状では、呉氏のイラストの使用に際しては、著作権の関係から、使用者が事前に呉市に申請し、呉市からデザイナーに確認をして、デザイナーが承認をし、呉市から使用者に承認の通知を送る、こういう流れになっている。
- 今後は、「条件付きで事業者に一般開放する」ことを検討している。具体的には、例えば、店舗の看板やホームページ、メニュー表などについては、事前の申請なしで使ってもらい、呉のシンボルとして、より浸透させるというもので、現在、デザイナーと調整中である。

#### 【3 みなとオアシスについて】 松原産業部副部長

- 「海の駅」は、「道の駅」のような特産品販売や賑わい創出の拠点としてのイメージがあるが、その設定要件は、「ビジター用小型船の係留施設、トイレ、及びこれらの管理者があること」であり、実態として、賑わい創出拠点となっていない場合もある。また、宝町地区は、多くの旅客船や貨物船が利用する地区であり、航行の安全性から、「海の駅」の設定要件である「ビジター用小型船の係留施設」の整備が難しい。
- 一方、「みなとオアシス」は、「道の駅」の港版であり、地域住民の交流や観光振興を通じ、「みなと」を核としたまちづくりを推進するため、国土交通省が登録をするもので、旅客ターミナルや大和ミュージアムのような文化交流施設、地元産品の物販・飲食店を含め、広範囲の区域設定が可能である。
- 運営は、NPO団体やまちづくり協議会など、地域の民間団体で行われており、現在、全国で126か所、広島県内で9か所が設置されている。
- 宝町周辺は、大和ミュージアムに年間約100万人、中央栈橋に年間約80万人の往来があり、大型船が間近に見られる優れた港の景観など、ポテンシャルの高いエリアである。民間活力を活かしながらこのエリアで賑わいを創出する手段として、「みなとオアシス」という制度があることを情報提供させていただく。

【4 呉市社会福祉協議会の新しい取り組み（ロボットスーツHAL等の導入）について】

呉市社会福祉協議会

- 「HAL」は、腰につけるタイプのロボットスーツである。呉社協では、昨年11月から、呉市内で初めて、この「HAL腰タイプ自立支援用」を活用した機能訓練を試験的に導入した。ここで紹介させていただく方は、90代の男性で、要介護2である。現在、本会が運営する通所介護事業所で、週2回、HALを使った訓練を実施している。訓練前と訓練後の写真を比べると、姿勢が良くなっているのがお分かりかと思う。本人の体の状態に合わせて、体を前後に曲げたり、立ち座りなどの動作を行う訳であるが、HALが体の動きをサポートするため、無理なく体を動かすことができ、それを繰り返すことで、少しずつ筋力がついてくる。特に腰の動きに正しい姿勢へのサポートを行うので、姿勢が良くなり、視野が広がり、転倒予防にもつながる。
- また、最近では通所介護事業所だけではなく、天応と安浦の仮設住宅でも試行している。避難所生活で筋力が低下し、歩くことをしんどく感じておられた方々が、この訓練を実施していくことで、歩きやすくなった、腰痛が軽減したとの言葉をいただいている。
- HALは体を動かせる人が対象であるが、運動ができない虚弱高齢者に対しては、低温サウナによる温浴療法を行うことで、心肺機能や健康関連QOLの改善がみられ、健康寿命延伸に係る効果が確認されている。
- 介護保険サービスを使って機能訓練を行っている人も、自立になってくると、事業所による機能訓練を終える。すると、外出や訓練をしなくなってしまう、また、要支援や要介護状態に戻ってしまい、介護保険サービスを使い始めることになってしまう。こうしたことを防ぐためには、運動機能を向上させたり、生きがいを感じられる活動ができる通いの場が必要である。
- 現在、地区社協を中心に活動している「ふれあいイキイキサロン」で、HALを活用した運動機能向上訓練や温浴療法、東洋医学等を加え、新たな通いの場を創出していくことで、健康寿命の延伸を目指していきたいと考えている。高齢者が増加しても、健康寿命が延び、元気な高齢者が増加すれば、地域の力は強くなると考えている。

【5 広島大学呉サテライトについて】 森下企画部副部長

- 時代を先取る事業の創出や次代を切り拓く人材の育成に向けて、起業支援や社会人講座などの新たな取組を展開するとともに、更なる連携の深化を図ることを目的に、この1月30日に「広島大学呉サテライト」を開設した。場所は、呉市役所本庁舎4階で、議会図書室・市政資料室の中にサテライトオフィス、その横にミーティングルームを設けている。
- 呉市と広島大学の共同事業として、起業支援や、市民や民間企業からの総合相談、公開講座、講演会等の開催、大学の活動などの情報発信、そのほか、社会課題の解決に向けた連携事業を行っていく。
- 今後、3月7日（木）に、くれ絆ホールにおいて、開設記念シンポジウムを開催することとしている。また、3月頃、時期は未定であるが「トライアル講座」、5月頃には「公開講座等」の開催を行うこととしている。

<今回会議の提案に関連して追加資料1・2を報告>

【追加資料1 Google Maps の活用例】 大下産業部長

- まず、「かき祭り2019」であるが、これは、2月以降に呉市内で開催される「かき祭り」の日時、場所などを示したものである。
- 続いて、「呉産かきグルメマップ」であるが、本年度、呉産かきの販路拡大事業の一環として、飲食関係者と生産者が協力して「呉産かきを味わえる飲食店ガイド」を作成している。

飲食店ガイドに掲載された呉産かきが食べられるお店を、Google Maps に落とし込んでいます。

- いずれも、Google Maps の活用例として試作したもので、今後、この情報に事業者や市民の皆様が新しい魅力を付け加えて、より充実したオリジナル地図として活用いただければと考える。

#### 【追加資料2 Instagramを活用した観光キャンペーンについて】 大下産業部長

- 現在、呉市の観光をリードしていく官民の人材育成と観光関係者の連携向上を目的として、丁野構成員に塾長としてご指導いただき、「くれ観光未来塾」という取組を実施している。
- 平成30年3月、1期生の提案発表の中で、「SNSを活用した情報発信事業」の提案があった。塾生自らが事業化への検討に着手し、事業内容のブラッシュアップを図る中で、豪雨災害からの復興に向けた豪雨災害風評被害払拭サイト「雨あがれプロジェクト」との連携が実現し、今まさに事業が始まろうとしている。
- 取組のイメージとしては、観光客、市民の方々に共通のハッシュタグ「フォトジェニックレ」を付けて、くれの絶景をInstagramに投稿してもらうものである。
- この取組の主役は、市役所ではなく、観光客の方々はもちろん、呉のまちに住み、あるいは経済活動をされ、呉市を良く知る呉市民の皆様、民間企業、関係団体の皆様である。本日本お越しの関係協力機関の皆様を始め、広くこのキャンペーンにご賛同いただき、Instagramへの投稿を通じて、皆さんの手で、「呉の絶景」を発信していただきたい。

### <状況報告 全般に係る意見交換>

- 呉氏のロゴの制限を解く件について、昨年、学会でこのロゴを使用したが、正直、待つ時間を結構いただいた。自由に使える範囲を、例えば学術的なものなどまで、広げていただきたい。

- できるだけ使用しやすくすることが目的であり、ご指摘いただいた学術的なものも含め、自由に使える範囲を広げていく。(近藤企画部長)

- ロボットスーツ「HAL」については、できるだけ広く市民に貸し出し、啓蒙をしていたきたい。都会では、予防医学によって医療費を安くするという循環が図れるように考えている。折角HALをお持ちであれば、「HALによって姿勢が良くなる」という動画を撮っておくとか、それを発信することによって、「自分も変われる」という刺激になる。

- 本当にそのとおりで、要支援になる前の方々にもっともっと広めて、「介護保険に挑戦」ぐらいのつもりで取り組もうと思っている。現状では3台のみで、全市をカバーとはいかないので、市とも組んで、大きくできればと思っている。(呉市社会福祉協議会)

- 巡回バス、体験できるようなバスで村を回って、皆さんの意識を高めたという事例を伺ったこともある。3台でもできることはあるので、是非とも取り組んでいただきたい。

- 呉市社会福祉協議会でやろうということであれば、福祉保健部で話をして、今言われたようなやり方を、知恵を出して活用するやり方をしていきたい。(新原市長)

- 「みなとオアシス」に関する説明は、中央棧橋を「海の駅」にしてはどうかという提案に対するものだと思うが、名称にこだわるつもりはない。実は海の駅が「小型船舶の係留施設」を要件とすることは、今初めて学んだ。ただ、インターネットで調べたところ「ゆたか海の駅」が第1号ということも初めて知った。前回もお話したが、こうした施設がほとんど活用されていないというのは寂しい限りである。そういうものも含めて、海上の観光を考えるべきではないか。

- 「海の駅」がクルージングの拠点だとすれば、ゆたか海の駅に船を留めて、御手洗には見に来てくれると思うが、呉市内までは来てくれないだろう。中央棧橋にも係留施設があっ

て、ここも海の駅ですよと言った方が、PR効果としてはあるのではないか。そういう港を使った観光客のためには、やはり「海の駅」の方が、インパクトがあるのではないか。

● この付近では、クレイトンベイの付近が「海の駅」となっており、中心部に近く、そちらの活用も含めて考えるべきかと、改めて感じた。(松原産業部副部長)

○ ニューヨークタイムズが、「今年訪れるべき52の観光地」の中の第7位に瀬戸内海の島々を掲げてくれている。海外の方が来ると、クルーズ船などを借りて島々を回るようになるので、これを活かさない手はない。これに関して、市はどのように考えておられるのか、伺いたい。

● クルーズ振興に向けて、市を挙げて取り組んでいきたいと思っており、船主の方々なども含め、呉市をアピールしながら、観光客を誘致していきたい。(松原産業部副部長)

## (2) 議題：くれワンダーランド構想に向けた取組について

### ア 観光振興・賑わいの創出 分野

#### <構成員からの提案>

##### 【公園，道路を使用した公共空間の利活用に関する規制緩和】

- パークPFIなど，公共空間で事業展開できる制度はあるが，その前段階，例えば，マルシェやイベントを開催するようなケースでは，未だ，許可申請や規制などのハードルが高く，これら関係規制の緩和をお願いしたい。
- 都市再生推進法人という制度は，NPOやまちづくり団体など民間がまちづくりを進めていくことができる制度なので，これを指定する上での審査基準の検討に当たっては，引き続き，関係団体の意見をしっかりヒアリングしてほしい。
- 青山クラブは，非常に多くの人の思いが詰まっている施設であり，市民の注目度も高いことから，検討状況の進捗が市民の方々にも見えるよう，ソフト・ハード・資金の3点から検討委員会を設置することを提案する。

##### 【市，開（共）催のイベントの分散】

- 呉市の人口分布が非常に変わってきており，現在は，阿賀・広地区に若者が流入しており，人口が増えている。  
住民基本台帳（平成30年11月末）によれば，中央・宮原地区の人口 57,196 人に対し，阿賀・広地区の人口 62,384 人と阿賀・広・仁方地区の人口が上回り，更に5歳～70歳の年齢区分では，その差はより大きくなる。
- 呉市内で行われている歴史あるイベントはたくさんあるが，常に旧呉市内ではなく，たまには広地区で開催をしてもいいのではないかと。分かりやすく言うと，呉みなとまつりが広地区であっても良いのではないかと，あるいは，呉海上花火大会も隔年で広湾・呉湾を交互に開催してもいいのではないかとという考え方である。
- 阿賀・広・仁方地区には国道185号が伸びており，広大橋東詰から広交差点の間がほぼ一直線で1.2kmの距離がある。片道がほぼ3車線で，中央分離帯も整備された大きな道路であり，片側車線を開放してイベントを開催してはどうか。そうすれば，東広島呉道路を経由した新たな見物客を発掘できることにつながる。
- 海上花火大会に関しては，広湾の方が呉湾より広いという環境があり，下蒲刈・情島・倉橋島東側からも見物ができる。自ずと，花火見物のクルージングも，皆さんで提案できると考えられる。

##### 【呉の秋祭りを基軸とした「町おこし」ならびに「観光客誘致」】

- 呉の秋祭りは9月下旬～11月上旬までの各地の神社で順次行われる。警固屋・宮原～旧呉市街地～焼山に至る地域では鬼の面をかぶり手には竹棒を持った「やぶ」が大暴れするのが風物詩になっている。「やぶ」は，神様の警護といった役割があるとされており，祭りに欠くことのできない存在である。
- 先日も，なまはげがユネスコの無形文化財に登録決定したということがあり，また，「やぶ」は，他地域にはない独特の呼称で，その動作・風貌と併せ，地域おこし・町おこしのシンボルとなるのではないかと考える。
- また，やぶをモチーフにしたキャラクターを呉氏の兄弟キャラとして制作し，PRに活用することも提案したい。
- 秋の観光シーズンに毎週末どこかの神社で祭りが開催されており，やぶの秋祭りと冬のカキ祭りを一連のパッケージとしてセットでPRし，秋の観光シーズンから冬に向けての集客の勢いをつなげていきたいというものである。

【SNS (instagram) を活用した国内の若年層観光客の獲得 (広島の新規観光ルートの創造)】

- 広島では、呉に来たことがないという人がほとんどで、観光客も、宮島に行って、平和公園に行って、帰ってしまう。広島から呉まで少し距離があるので、「呉に行く」という目的がないと、呉に来ない。
- 「まず来てもらうところ」をつくっていきたいと思い、Instagramを活用し、「呉市民だから知るいいところ」を発信し、観光ルートを新しく開発することについて、提案する。いろんな人に呉を知ってもらい、「呉に住んでいるのがうらやましい」と言ってもらい、もっと呉に誇りを持つ、そのきっかけになればと考える。
- Expedia Japan が18～35歳までを対象に行った調査によると、4人中1人が「観光するときにSNSを使って行先を決めている」と回答している。特にInstagramを挙げた理由は、「体験や感動を共有できるということ」が、一番のポイントである。多くの若者の世代も、「時間が余ったからどこかに行こう」というときにInstagramを使うと思う。

【Google Maps の活用について (デモンストレーション)】

- このGoogle Maps の [My Map](#) という機能は無料である。  
制限時間3分以内で、新しいMy Map を作ってみる。  
～ デモンストレーション ～
- ここにいる全員が、それぞれ気に入ったマップを作れば、来週には70個ぐらいのマップができる。そうすると、「呉はMy Map がすごくある」、「呉に行けば何でもGoogle の地図に載っている」というまちになる。
- ぜひ皆さん、家に帰ったら、釣りでも、趣味でもなんでもいいので、My Map で一つ作ってみてほしい。

【新たな観光推進体制の構築】

- 観光事業、集客交流事業の一番のネックは、人と組織である。つまりプレイヤーがどう育ち、動いていくか、そのための組織がきちんとあるか、ここがないと、DMOやDMCをつくっても動かない。
- そういう中で呉のことを考えると、やはり大和ミュージアム一極集中が目立つ。100万人来ている集客交流拠点だが、そこから人の流れが非常に弱い。「海外の客はどこを見るか」がポイントで、旧海軍・鎮守府一帯の資源もあるが、どちらかというと、自然、景観、倉橋や御手洗などに残っている昔ながらの暮らし、文化の魅力など近いものがあると思う。そういう観光資源を活かしていくこと考えなければいけない。呉はインバウンドを含めたポテンシャルが非常に高い。それを背景にして、これからの方向性ということで、ステップがいくつかある。
- 解決の方向性のSTEP1は、このためにいろんな分野の方が協働できるような場所を作る。「市民会議」の一つのイメージは、小田原の「政策総研」、つまり市民の皆様がそれぞれ研究員となり、チームを作って、行政に対していろんな提案をしようというもので、そういう大きな流れが現在の市内のいろんな活動につながってきた。今回のこういう会議ももちろんそうだが、公開講座や連続講座、それから、観光未来塾は一昨年からはスタートし、初年度は行政職員に、去年の5月からは民間事業者に集まってもらい、具体的な事業提案をしている。それを行政がサポートしていくというスキームで動いており、おそらく、こういう形の講座は全国でも初めてではないか。
- こうしたSTEP1を受けて、「STEP2 戦略的事業と儲かる仕組みの検討」とあるが、要は、実際に事業を動かせるマネジメント組織、事業本位のきちんと儲かるマネジメント組織、集まるというだけではなく、具体的に進めていく事業本位のマネジメント組織を作っていくことが重要だ。
- そういう事業本位の組織ができてくれば、それらを横断、串刺しをする新たな観光推進体

制が意味を持ってくる。先に大きな組織を作り、そこから事業化に入るというやり方もあるが、むしろここでは、先に事業本位の組織を作り、それを横につないでいくというイメージで提案したい。

- 私は、呉は、インバウンドで50万人は十分いけると思っていて、現在は7~8万人。呉線の観光的な面からの路線活用、空港からのアクセス、情報系のOTA（オンライン・トラベル・エージェント）、リアルエージェントなど海外のエージェントとダイレクトに交渉できるような環境を整備することが、こうした組織体制を作ることと同時に大事なのではないか。

## <意見交換>

- 各提案は呉市のアピールということで素晴らしいが、「呉は医療が素晴らしい」という観点が少し抜け落ちている。景色がいい、地域がいい、人がいい、そして健康管理が良く、病気になったら看てもらえる、そういう流れを是非作りたい。「健康管理」が呉の特徴である。
- 今、実際に呉市の部署と連携しているのだが、台湾から観光にくる医療団が我々の病院を見に来るということで計画している。三つの病院をラウンドするとか、そういった医療の公開もできるので、共通認識の中に是非入れていただきたい。
- （多くの方が市外から医療サービスを受けに呉市内に来ているのかという点について）  
患者の7%は広島からで、92~93%が呉市の中で完結しており、地域完結型と言われる。2025年頃には、15%は呉市から広島へ行くのではないかと、逆に15%くらい引っ張ってこられるのではないかとという案もある。だから、我々は引っ張ってこないといけないということを非常に意識している。
- 大竹の方だったか、医療センターがふるさと納税を活用して、人間ドックをやっている。呉市は考えてはいないか。返礼品で検査ができる。60万円くらいだったか。
  - 返礼品については、呉の特産とかいろいろやっているのだから、今のご提案も含めて検討していく。（久保企画課長）
- 「旧呉地区と広地区でのイベントの分散」は良いと思う。広に住んでいる友人に聞くと、やはり広地区でイベントがあまりない、呉地区に行こうと思っても駐車場がないので行けない。公共交通機関で行くのはハードルが高く、自由度の高い車で行こうと思っても、駐車場が高いので置きたくないということで、若い世代が東広島や呉市外に出てしまう。
- 旧呉市街の人口減少については、これから外国人を含めた観光客を増やしていくと同時に、れんが通りに雇用できる企業を誘致するなど、住む人も増やしていかないといけないのではないかと。
- 国の政策としてこれから外国人観光客が増えるというのは明らかであり、外国の方々が安心して来ていただけるような取組だとか、インスタグラムであれば、外国人が見る前提で外国語表記をするとか、いろんな工夫ができるのではないかと。
- 私の主観だが、中通りは夜開くような飲み屋がいっぱいできている印象で、主婦からしてみると昼行くところがない。薬局に行って、食品買って帰ろうかぐらいのところなので、楽しめるようなところがないというのが、足が遠くの原因である。
- 周南市の商店街の取組では、物販店の出店促進エリアをあらかじめ決めていた。その周りにテナントミックス対象エリア、昼に開いている店を集中的に置くような対策をしているのが面白い。そういう対策や、商店街への企業誘致など、普段からそこを通り、お金を落としてくれる人をもっと増やしていく対策ができれば、良いのではないかと。
- 呉は呉でプレイヤーを少しずつ増やし、広の商店街も盛り上がり、一般市民、潜在的な人たちが、イベントをしたい人がやりやすくするような取組をすれば良いのではないかと。

- 「あさまち」の話題について補足すると、2年前に広地区で「あがまち」を開催し、大変多くの人に来てもらい、そこにマーケットがあることは感じている。ただ、そこに何千人の方に来てもらうとなると、場所が必要である。
- 中通りに関しては、若い人たちと一緒に取り組めるものが必要である。  
 私たちは学生時代、街に出ていた。街で遊び、いい思い出もあったので、私達はここで創業しようと思った。だが、今の若い人たちは街に出てくる用事もない。いい思い出がない街で、創業とか、何かしようとかいうことはない。今から私達ができることの一つとして、若い人、学生の人達と、ワークショップや実践型の商売などを一緒にできればと、取り組んでいる。
- この会議に来る前に中通りを歩いてきたが、印象として非常に暗い。他人を受け入れませんという雰囲気が多分にあり、地元の方、観光客が入りやすくするには、まちの雰囲気自体を明るくしなくてはいけない。そのためにはもちろん若い人が必要だと思うが、日本全体で若い人はそんなにおらず、引っ張りだこである。そうであれば、「そこにいる人」が自分たちのまちを愛し、誇りに思うよう、住みやすいまちにしていくしか方法はない。
- 道やアーケードはちゃんと整備しているが、全体の統一感もなければ、お昼を食べに行くにもどこがお店なのかも分からないというのが衝撃的だった。お店が集まっており、確かに飲み屋さんは多いが、昼間に開く店はどこにあるのか見てみると本当に少ない。
- これでは買い物にも来ないし、女性が来ない店には他の人たちも来ない。日本全国共通で、観光客もそうだが、お金を落とすのは女性だ。女性がお金を落としてくれるような店づくりがない限りは、一過性で終わってしまう。女性ががんばって羽ばたいていくまちづくりというのが、これからは必要ではないか。
- 青山クラブの保存・利活用に係る検討委員会についてだが、「この世界の片隅に」の片淵監督が、青山クラブに対して思い入れが深く、実は市が購入する前に「あそこを何とかしたい」という話があった。保存形式、歴史的経緯も研究している方だし、外壁も昔はこうだったとか詳しく調べておられるし、展示に関してもいろんなアイデアをお持ちなので、是非、このメンバーの中に片淵監督を入れてもらえばいいのではないか。
- れんが通りについてだが、アーケードがあり、雨の日でも歩ける。平日昼間に子どもたちを遊ばせながら、お母さん同士もお話ができる場所を作れば、昼間でも、子どもたちの声や、お母さんたちの笑顔で、雰囲気が大きく変わるのではないか。
- 夜は夜でいいお店がある。昼間にもう少し楽しめる場所になれば良い。「くれくれ・ば」とか「ひろひろ・ば」と同じような形で、お母さん世代が集える場所があるのも良いのではないか。

## イ 交通分野

### <構成員からの提案>

#### 【第三の交通（輸送）手段】

- 豪雨災害は非常にショッキングだった。街そのものを強靱に、今一度まちづくりをしっかりと作り上げ、そして市民のより良い生活と市外から多くの人に来てもらえるまちづくりをしてもらいたいと思っている。具体的には、「選択枠を増やす」ということを提案する。呉へ入ってくる、そして、呉から出て行く線の数を、今以上に増やしていきたい。クリアラインの4車線化以外にも線を増やしていきたい。

#### <水上バスについて>

- 呉の地形を活かした新たな通勤・観光手段として、水上バスを走らせてはどうか。平日には広・阿賀・呉から広島市内へ通勤に、また、日中・土日祝日は観光用に利用していきたい。自転車やバイクを積める構造にしておけば、下船後の移動手段にもなるし、サイクリスト、観光客にとっても、自分の好みの区間を自転車で走ることができる。
- 船は非常に輸送能力がある。また、信号も交差点もないので、意外と早く着く。将来的に軌道に乗れば、平和公園の横、元安川まで入っていく船にすれば、紙屋町までもすぐである。このようなことを実現できないかと思う。
- 広島県に入ってくる観光客は、広島駅へ入ってくる人が非常に多く、次がバス・広島空港だと思う。観光客は広島駅から平和公園・原爆ドームに行き、宮島へ行き、そこから帰ってしまう。そこで、宮島から船に乗ってもらい、瀬戸内海の島々を楽しんでもらいながら、ポートピアを海の駅にして、そこから呉に入るといったことが観光としては有効なのではないかと考えている。
- 加えて、旧市内から焼山までの道路を拡張すれば、呉を起点として筆の里まで観光エリアに入れることができる。広島を起点とした観光の中に呉を入れ込むといった施策も考えていければと思っている。
- 船での通勤は馴染みがないが、ヨーロッパやカナダでは普通に行われている。せっかく呉の街は目の前に穏やかな海があるので、これを利用しない手はない。国内でも清水がエスパルスドリームというフェリーを通勤用に使っており、こういったノウハウを活用したい。瀬戸内海フェリーが既に大きな実績を持っているので、これを我々の力でいいものにできないかと思っている。

#### (スカイレール)

- スカイレールについては、決して新しい考え方ではなく、以前から呉でもこのような意見が出ている。灰ヶ峰と中心部をロープウェイで接続し、通勤又は観光資源として活用していくことはできないかという考えである。
- 飛行場から呉に来るのに、観光するのに遠すぎ、時間ももたないという意見をよく聞く。それならば途中の町が連携して、まずは西条の酒蔵を、次は熊野の筆の里を、そして、ロープウェイで呉の景観をゆっくり見ながら降りてきてもらう。バスは空でいいので呉に降りてくる。そういった一つのルートが作れるのではないか。
- 灰ヶ峰から一気に降りてくるとなると距離があるので、技術的に難しい面がある。2・3箇所の中継地点が必要になることが一つと、日本の法律上、民家の上は通ってはいけないことである。
- 突拍子もない考えのように思うが、他地域のことを考えると、矢野でも、瀬野川でも、こうした交通手段が採用されている。また、ボリビアのミ・テレフェリコ、ここは民家の上を

降りてきて一気に通勤に使われている。最近では、博多駅と博多湾をロープウェイでつなぐという案が出ているし、また東京都心から東京湾のロープウェイといったこともある。また、ドイツ・イタリアでも高い山から降ろすロープウェイ、900mの高さから降ろすものもある。オーストラリアのケアンズでは、山の中の景観を楽しみながら旅をするロープウェイもある。

- 建築費が安いことが、一番の根底にある。ロープウェイは、灰ヶ峰から呉まで降ろしても1000億円はかからない。道路を作るよりもうんと安いと思う。道路は、km当たり街中なら50億円くらい。東京などでは80億円かかるという試算があるようだ。時速22kmなので灰ヶ峰から呉までが30分くらいで降りてこられる。

## <意見交換>

- 呉は御手洗にもあるように海から開けた町。水上バスの提案はとても素晴らしく、海上交通・洋上交通は非常に有望だと思うが、ネックは「事業主体をどうするか」である。船があるか、ペイするか、そういったことを何か社会実験としてできないか、という検討が必要である。
- 舞鶴では、船の社会実験をしてきたが、おそらく船だけではペイしないと思う。他の要素と絡めてトータルコストを下げていくといった仕組みが必要である。横須賀では、ホテルとパックでトータルコストを下げるといいう取組をしている。
- 呉で実施するときも、何かトータルのコストを下げていく、つまり船にかかる非常に膨大なコストをそこで緩和してくようなことをやらないといけないと思う。
- 観光だけではしないと思う。通勤に使うというところまで踏み込まないと、実用的な船にならない。現状では、雨が降ればJRが止まるなど、いろいろ問題を抱えている。こうしたことが、官民一体で考え方の根底として必要ではないかと思っている。
- 通勤を取り込めるかどうかかが問題である。通勤を取り込むときの一番の問題は、港から両側に対しての足が意外に良くないので、港地区の人向けにその需要があるかどうかを確認することである。災害時の交通を考えても、結局、国道31号に近い場所の事業者が一番に反応されていたし、逆に広島方面の事業者と手が組めるかどうかということだろうと思う。
- 実数として毎日乗ってもらえる方が20人だとしても、掛ける200日という単位で利用は出てくる。観光が苦しいのは、5千、1万の人が全部バラバラになってしまって、それが費用をカバーできない一番の理由になっている。
- 「通勤・通学」、そして、「両端でできるだけ足の短い場所」、そして、「船の方がメリットが明らかに出る場所」と考えると、宇品近くしかないのではないかと思う。宇品とあまりに離れてしまうと、広島まで行くことを考えると、船に乗るメリットがどんどん薄くなっていく。果たしてそういう提携先が見つかるかということだと思う。
- スカイレールについては、交通事業者からすれば、結構、悩みの種になっているのではないかと思う。距離のメリットが意外にあると思って開発されたが、やはり自動車社会であり、道路がなかなかできないと思っていたところが拡張され、つづら折りで広島市内に降りて行くのと競争になっていて、結局、道路容量を拡大したことによって、鉄道への分担率が下がるという、あまりいいことではないが、そのような状態になっている。
- 事業化するのであれば、「こういう人は確実に使ってもらえる」という人を押さえてから動いていく必要がある。非常に夢があり、発想として面白いので、是非、検討していただければと思う。

## ウ 創業支援分野

### <構成員からの提案>

#### 【若者や女性の創業サポートの実施、商業特区の制定による規制緩和】

- まちの発展は民間だけでは難しい。現在、呉市には、創業支援「来てクレにぎわい店舗公募事業」や「起業家支援プロジェクト」が実施されている。また、商工会議所など関係団体の支援策もあり、これからは私たち民間も創業の支援・サポートをしていきたいと思っている。そういったものを発展させ、取りまとめるような取組をお願いしたい。
- 商業特区という提案をしているのは、社会実験などをやってみてはどうかということである。中通りは暗いという話があったが、単純に街灯を付けて明るくすればいいという問題ではなく、例えば道路に屋台を設け、商業の光で埋めていくのが本質の賑わいにつながるのではないかと思う。
- 例えば、中通2丁目辺りに屋台をやっても良いエリアを作るとかである。そういう取組をしたい人たちはいるが、ハードルが高い状況なので、期間限定でも構わないので、いろいろな人たちが活躍できる場、チャレンジする場を与えてあげたい。

#### 【起業支援における段階別支援策と女性の企業支援について】

##### (起業支援における段階別支援策)

- 日本各地、47都道府県全てが、多かれ少なかれ起業支援の仕組みを持ってやっているが、検証していくと、やはり、1・2・3年以内にダメになってしまう。支援策は、1回だけやればよいものではなく、ちゃんと段階別にその人の成長に合わせてやっていかないといけないということをつくづく感じている。
- 最初にまず、幅広く起業に興味がある人への啓蒙の位置付けということで「起業入門」セミナーが各地で行われている。この後、例えば立ち上げに関わる部分、例えば観光で立ち上げするとか、自分の趣味を生かして、持っている資格で立ち上げをするとか、これはそれぞれ個別相談になる。この個別相談に対しては、官民共同なのか官が中心になるのか分からないが、相談窓口をちゃんと設置して、個別に対応しないと難しい。個別に対応するときには専門家が必要な場合は、アドバイザーみたいな形で専門的なところに入ってもらおうというのを高知県ではずっとやっている。
- 1年経過時は、最初は何も考えずに商品を作って売っていたのが、1年経って締めてみて、初めて数字が必要だと分かってくる。このタイミングで、ちゃんとネットワークの場づくりと最低限の経営の知識を教える必要がある。
- 3年経過すれば、マーケティングするにはどうしたらいいとか、海外に売るにはどうしたらいいのか、それぞれ経営者が疑問を持つことがあるので、それに合わせた経営知識が必要になってくる。
- 5年くらい経過して、そこそこの年収になって更に発展したいときには、数字だけではなく全体を考え、しかも、女性は人生と起業とどのように交わっていけばいいのか、そういうことまで考えてやって行かなければいけない。  
こういう段階的な支援策というのが必要なのではないか。

##### (女性の起業)

- 女性の起業は、男性の起業と違って資格や趣味を生かした、プチ起業や週末起業など非常にいろいろなものがあり、皆さんが考える起業とは違ったものが多分にある。
- 女性だからこそ直面する問題、例えば家族、介護、育児など、単なる起業セミナーではカバーできないところがある。呉市が起業ということを主眼に考えているならば、こうしたところをきめ細かく対応していくことを、是非ともやってもらいたい。

- 例えば自分を表現してみたり、これまでやってきたことの棚卸しをやってみるとか、このようなことを自分自身で考えて、やっぱり起業をしてみようと思った人がたくさんいるので、そこを小さく始めて大きく育てていくということで、これは若者に限らず、定年退職した女性でもやっている。こういった方たちの集まりが、商店街を元気にしていく。商店の空き店舗を活用したり、プチ起業とか週末起業は曜日や時間が決まっていたりするの、そこをうまく何人かの方に使ってもらって、みんなに元気になってもらう、そういう取組を各地でやっているの、うまく取り入れていただければと思う。
- 女性の起業家同士のネットワークづくりの「場」、これ絶対である。男性同士の起業家だけではなく、女性だからこそ分かり合える悩みがあるので、そこをうまく解決するような場づくりは是非とも行政にお願いしたいと思う。

## <意見交換>

- 広島大学呉サテライトに「起業支援」とあったが、どのようにするのか、4階の狭い部屋で女性の支援はできるのか。具体的な活用方法について教えてもらいたい。
  - あの中で全てが完結するものではない。例えば、技術相談を受けた場合は、広大の専門の先生につないでいく窓口になる。また、今後は、創業を始めとするいろいろなテーマの公開講座なども考えており、大きなセミナーをするときは、この部屋のような大きな部屋で行うなど、柔軟に運用していく。(久保企画課長)
  - 女性の起業については、プチ起業や週末起業など、いろいろある。また、女性同士で話をすると非常に良い結果になることがあるということは私どもも意識している。来年度の予算で女性の起業について二つあり、一つは去年からしているクラウドファンディングによる起業のコンテストを行う。今年は10件の応募があり、上の3件を選び、その3件についてクラウドファンディングするが、これを来年度も続ける。もう一つは、プチ起業や週末起業など女性特有のニーズもあるだろうということで、やり方は検討中であるが、枠を取ってある。そういう意味では、非常に参考になる提案である。(新原市長)
  - 商店街については、去年、クラウドファンディング型創業支援のコンテスト発表会で、リノベーションまちづくりをやっている中村さんというカリスマ的な方に講演してもらった。呉の街も見てもらい意見をもらった。こうした取組を引き続き行いたいと思っている。商店街の活性化については、今、リノベーションのまちづくりは福山で始めているが、それを参考にして、地主の方を中心に、土地を売買するのではなく、それを借りて有効に使えないか検討している。そういう場合も、カリスマ的な人を呼んできて考えるようなことを検討している。(新原市長)
  - リノベーションまちづくりについては、中通りには空き店舗がたくさんあるので、地主の方に店舗を安く提供してもらい、そこで新しく起業したい方を発掘し、その間を取り持つ仲介の方も見つけ出し、空き店舗で新形態の事業を行ってもらおう。そのためのリノベーションスクールを始めたいと考えている。(大下産業部長)
  - 女性の起業では、カフェ形式での勉強会を始めてみるなど、提案をできるだけ取り入れるよう、検討していく。(大下産業部長)
- 私の住んでいる地域では、過疎が進んでいて子どもが少ない。小学校も廃校となったが、子育てが済んだお母さんたちがその一室を借りて土曜日の朝だけカフェをやっている。起業という感じではなく地域のためにやっている。今は商売を抜きにしてほぼボランティアで、自治会などのお金を使いやっているが、ノウハウなどが分かれば変わるのかなと自分の住んでいるところを思い浮かべた。創業などのセミナーがあるということを知ったら伝え

たいと思う。

○ 広島大学呉サテライトについて、3月7日（木）に開設記念のシンポジウムが開催される予定である。広大サテライトに期待するものと題して準備を進めている。広島大学も呉の地域で何をすればよいのか、こういったニーズがあるのか探っている最中である。パネルディスカッション形式で意見交換をする予定となっている。

○ 観光推進体制に絞り込んで話をする。国では観光ビジョンのプログラムを見直している。その中で地域交通の問題が1丁目1番地になりそうであり、そこに予算が重点配分されそうである。

○ 何が言いたいかという、地元の方は車で動いているのであまり電車には乗らないし、バスのことも意識しない。海外客や遠方の客は地域鉄道や路線バスが不可欠である。つまり、今後は、海外の客が増えてくるということになると、圧倒的に公共交通機関の整備や仕組みづくりが重要となる。

○ 呉はインバウンドで50万人いけると言ったが、そのための条件としては、呉線を含めたバスのトータルマネジメントを、エリア全体で見直すことが必要なのかもしれない。海外の方が来たときに呉でどう動いたらよいか、レンタカーを借りる人もいるが、公共交通がないとインバウンドは増えない。国としても、全国の情報源を統一していこうとか、地域単位の交通マネジメントをサポートしていこうという流れになってきている。

● 実は呉市内はバスが大赤字で、市がものすごく負担している。確かに、外国から来た人をどうするのかということになる。例えば、島の方に行くとき、今はバスがあるが、赤字なのでどうするかということがある。今、国が助けてくれるスキームがあるのであれば、そういうものも一緒に考えていきたい。コンパクト&ネットワークを考えないといけない時期になっているので、関係機関の方々、塚井構成員や、高専・広大・海上保安大学の先生方の力を借りて考えていきたい。（新原市長）

● お金の話と知恵の話とがあるが、知恵の方は塚井構成員や交通専門家の方々、また、呉駅は別途に懇談会を開いているので、そちらで議論している。また、公共交通網形成計画に関する議論もあるので、しっかりとやっていきたい。（濱里副市長）

○ 広島大学呉サテライトの件で気になっている。なぜ広島大学なのかピンとこない。広島国際大学、呉高等専門学校、文化学園大学など、元々ある大学と広島大学との共同研究とか、そういった大学の連携というのにも必要となってくると思う。

● 誤解のないように申し上げますと、文化学園大学と国際大学は呉市内にあるので、直接話に行くことができる。また、呉市と大学で連携協定も行っている。大学のネットワークについては、広大・文化学園大学・国際大学・高専も入ったものがある。広島大学はやや遠いところにあるので、サテライトを設けたということである。（新原市長）

● 呉市内にある海上保安大学校・広島国際大学・呉高等専門学校・文化学園大学とは、平成12年からオープンカレッジネットワークという組織を作り、呉市が大学の知恵を借りたいことをお願いして、アドバイスをもらったり、学生に地域活性化研究ということで呉市から少しお金を出して、学生自ら呉市の活性化のためにこんなことをやったらいいのではないかと研究をやってもらっている。他の大学とも連携していることは理解してもらいたい。（近藤企画部長）

○ 女性の起業について、美容師の友人で、独立したいが、店舗を一つ借りるというのはハードルが高いので、1席分だけ、予約があるときだけ利用できないかという話があった。また、エステに長年勤めていた人で、自宅でエステをしようと思い、退職して始めたがうまくいかず、他の仕事をしながらやっている人がいる。その人も店舗を一つ借りるのがネックになっている。シェアできる空間があれば女性もやりやすいと思う。

● 今のような話を例えば広域商工会や金融機関などで知恵を出してくれるとか、相談できる窓口はないのか。（新原市長）

<p>○ 私がやっている販路開拓セミナーの中でネイルサロンをやっている人がいて、一人でやるには広すぎるから、誰かとシェアしたいと思っている。そういうマッチング機能を女性の創業セミナーの中に入れていけばソースから集まってくる。シェアオフィスなどと言わなくても、余っているから使ってほしい、それでは時間はどうでしょうかという実質的なシェアオフィスができた方が、場所を借りましょうというよりずっといいと思う。お客さんに相乗効果ができるようなやり方を考える。そういう周りの人を探しておいて欲しい。その方たちを集めることが情報のデータベースになっていき、マッチングできるようになる。そういう方が呉市にはたくさんいるということを感じている。</p>
<p>○ もしそういう人たちが集える場所があれば、友達を連れてきたいと思う。みんなどこに相談していいのか、だれが背中を押してくれるのか分からない状態である。</p>
<p>○ 実は、地元の金融機関と商工会議所、そして呉市にも入ってもらい、創業支援のネットワークで定期的に会議を開いている。実際に相談に来る方を招いてアドバイスするという活動をすでにやっている。そういう所にぜひ来てほしい。</p>
<p>○ 呉信用金庫で創業支援として資金提供をしている「グッドラック」に応募するのが一番の近道である。採択されると支援金もあるし、段階的にサポートもできる。それ以外でもニーズがあれば、言っていただければ相談に乗る。そういうことをこれからどんどん広げていきたいと思っている。</p>
<p>○ 実は尾道の向島で、そのような事業を始める。実験店で、ネイル、エステ、コーヒーショップなど、フルタイムでは難しいから月に何回か、又は予約が入ったときだけするというのを私が作って始めようとしている。</p> <p>○ このようなことは銀行では難しいので、ぜひエンジェルになる人が始めていただきたい。大してお金がかかるものではない。私の場合は倉庫を買って改築し、実験店ができるように自分で飲食の免許を取って、ちょっと喫茶店がやりたいという人も自分で免許を取らずにできるようにしてあげようと思っている。</p> <p>○ 呉市にも成功している人はたくさんいるし、大きな企業で若い人たちを応援したいのであれば、ぜひ空き家を買ってそこを開放し、そういうことができるようにする。東京だとエンジェルはベンチャーの投資家だが、地方ではインフラを提供するのがエンジェルとして一番良いのではないかと考えている。</p>
<p>○ まさにこの5月に、中通りに、今回、私たちがふるさと納税型のクラウドファンディングで資金集めて事業をするチャレンジ店舗ができるので、何かあれば相談していただければ、解決できるのではないかと思います。中通2丁目の複合ビルを購入し、6店舗のうち3店舗をチャレンジショップなどに考えている。</p>
<p>○ この会議だけでも、今のような情報がシェアできるということはすごく貴重だと思う。こういうことが気楽にできるようなものを作っていただけるとよいと思う。</p> <p>○ 先程、銀行からお金を借りる申請の話があったが、敷居が高すぎてとてもそこまではいかない。その現状をどうやって広げてあげるのかというのが一番大切なのではないかと思った。</p>
<p>○ 事務局報告の「オープンデータの活用」と、菖蒲田構成員の「SNSの活用」、郡山構成員の「Google Maps」、丁野構成員の「新たな観光推進体制の構築」は、いずれも観光に関するものとしてつながっていると思う。</p> <p>○ 地図は、観光にとって大事である。交通機関は、繋がっていないといけませんが、呉と書いてある所から倉橋まで本当に行けるのかなと皆さん考える。Google Mapsが偉いのは、スケールがあることである。取組はそれぞれがやっていきつつも、学の立場からは、こういうことを利用する人たちを応援できる研究ができるかという観点でのデータが欲しい。</p> <p>○ 地図の中でどれだけの情報が蓄積されているか。これを活用してまちおこしをするという話をいやというほど聞いたが、継続して運用され、さらに分析されたというのはほとんど聞</p>

かない。つまり、意味のあるデータを蓄積していく体制が作れず、なかなかうまくいかない。

- データをためてオープンデータソースに入れていただければ、我々はA Iとは言わないが解析する気にはなっている。ぜひプラットフォームの中にデータがたまり続ける仕掛けを作ってほしい。たいへん難しいが、市として、自前で情報をため込んでニーズをすくい取ってやる気があるのならば話は違う。プラットフォームを作るまではなんとなく見込みが立ちつつあると思うので、呉市にがんばってほしい。

- 最後に、関係協力機関の皆様をお願いである。

先程から女性の起業について、産業部が来年1年をかけてカフェを作ることなど、いろんなことを考えていくが、1年ちょっと市長をやったのが、同じことをいろんな経済団体や金融機関がやっている。ぜひ情報をいただき、無駄がないようにお互い連携してWIN-WINになるようにできればありがたい。(新原市長)

- 女性の起業のプラットフォームをどうするかということだけでなく、世の中のとんがった方、みんなが憧れている人を市も呼ぶが、同じようなことを商工団体などもすると思うので、そういったことはできれば連続して、全体を見ると「なるほど有効にお互い関係があるな」というものであれば一番いい。(新原市長)